

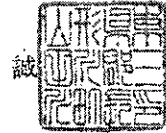
三建環第186号

平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

山形県東田川郡

三川町長 阿部



今後の道路行政についての意見・提案について（回 答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼ありました標記の件について、別紙のとおり回答します。

今後の道路行政についての意見・提案

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

山形県三川町

高規格幹線道路（日本海沿岸東北自動車道）や地域高規格道路（新庄酒田地域高規格道路）のネットワークの整備等、地域にとって真に必要な道路の整備を確実に進めていただきたい。

また、B／C費用便益比の分析にあたっては、地方の実態に即したものとなるよう充実を図っていただきたい。

地方道の整備促進のためにも、地方道路整備臨時交付金制度の充実を図っていただきたい。

今後の道路行政についての意見・提案

②－１ 地域の現状と抱える課題

山形県三川町

○ 現状

新潟・秋田両県境にまたがる区間については、国道７号の他に代替路線もなく、近年発生した土砂崩れなどの災害発生時には大きな迂回を余儀なくされました。

地球温暖化の影響とも思われる局地的な集中豪雨が全国各地で発生していますが、本町においても同様に集中豪雨や河川の増水に伴う浸水対策に追われることが多く、災害時の応援派遣要請も今後検討しなければなりません。

商業施設の拠点地区への交通の中で、歩行者や自転車通行については、町の中央を流れる川が一部地域を分断するような状況となっています。

○ 課題

高速道路のネットワークを整備することによって、国道７号が災害発生時に通行止めとなった場合、代替路線としての機能を果たすことになるほか、日本海沿岸地域の交流と連携を強化し、物流の円滑化も図られることから、国内の均衡ある発展にもつながることが期待されます。

災害時の応援派遣要請を行なう場合、近県からの速やかな移動を求められますが、現状では時間のかかる状況にあります。例えば、排水ポンプ車の派遣要請を行なう場合、移動時間も含めて３時間以内の稼働開始の確保が必要ですが、住民の安全を守るためにもネットワークの強化は重要な課題と考えます。

歩行者空間や自転車通行のスペースが確保できない危険な状況の改善が強く求められています。

今後の道路行政についての意見・提案

②－２ 地域の目指すべき将来像

山形県三川町

三川町は、平成１３年度を初年度とする平成２２年度までの１０ヵ年計画として第２次三川町総合計画を策定し、現在、その最終段階を迎えています。今年度から、平成２３年度を初年度とする次の１０ヵ年計画の策定作業に入っているところであり、現計画に示されている目指すべき将来像は、下記のとおりであります。

第１章 人と環境にやさしい安全で快適なまちづくり

第２章 共に助け合い誰もが安心して暮らせるまちづくり

第３章 人と技術を磨き、町を支える産業のまちづくり

第４章 学び、ふれあい、輝く人と文化を育むまちづくり

第５章 知恵を活かし町民とともにきずく風格あるまちづくり

道路関係の主要な施策については、次のとおり。

道路交通ネットワークの確立

道路の計画的整備

歩行者等の安全確保対策

道路管理の充実

公共交通の確保

今後の道路行政についての意見・提案

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

山形県三川町

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
・ 地域活力の向上 ・ 安全安心の確保	・ 日本海沿岸東北自動車道の整備促進 ・ 歩行者や自転車及安全に通れる橋や道路の整備促進	・ 国道7号を軸としながらも、日本海沿岸東北自動車道の整備促進により、都市との物流が円滑となり、日本海沿岸地域との交流も深まることが予想され、地域活力の向上にもつながるものと期待されます。 ・ 自歩道橋の架橋や歩道の整備により、子ども達や高齢者が安心して通ることのできる街づくりが、地域の活性化につながります。	